【視覚障害についての講義レポート】

視覚障がいについての講演 レポート

琉球大学 理学部４年

今回の講義では，社会福祉法人沖縄県視覚障害者福祉協会理事長の知花光英（ちばな・みつひで）さんに講演をしていただいた．本講演の感想は次の三つである．

1. 視覚障がい者の現状を，特に当事者の声で知ることができた
2. テクノロジーを如何にして活用するのかの問題意識を改めて意識した
3. 聴覚障がいと視覚障がいとの比較ができた

視覚障がい者の現状について，Fig.1 に情報収集に占める五感の割合をまとめた（作成に用いたデータは産業教育機器システム便覧より引用）．視覚情報は実に全体の 8 割を超えるとされており，そこから生み出されるアクセシビリティの低下は計り知れない．講演の中で「もし障がい者にならざるを得ないとしたら，どの障がいを選ぶか？」という問いを投げられた際は，視覚障がいに対する底知れぬ恐怖を体感した．その一方で，視覚障がい者が不幸かと言えばそうではなく，やはり社会へのアクセスのしにくさ，社会的障壁がむしろ問題となると理解できた．知花さんは野球好きということで，実際に球場に行っては視覚以外の情報を頼りに観戦を楽しむという．これは視覚情報がないからこそ，視覚以外の感覚が重要になる良い例だと感じた．この例からも分かる通り，視覚情報がないことが必ずしも本人の希望を妨げるものではないということである．

次にテクノロジーの活用についても考えさせられた．講演を通して，さまざまな情報を点字や音声データなどで提供する「サピエ図書館」の存在を知ることができた（Fig.2）．サピエ図書館では，視覚に何らかの障がいを持つ個人会員約 15,000 人が利用しており，全国の図書館を含め 330 を超える施設や団体が加盟し，約 80,000 人以上の視覚障がい者への情報サービスを行っている（サピエ図書館 HP より）．視覚障がい者を始め，目で文字を読むことが困難な方々に対しては，とても優良なサービスである．

しかしながら，西日本新聞（2020/2/7）では「総務省の統計などによると年間の新刊書籍の出版数は約 7 万 2 千点。サピエ図書館と国立国会図書館に新たに登録される点字図書は約 1 万 2 千点にとどまる。」，社会福祉法人日本点字図書館事業報告（2017）では録音図書の蔵書数は 18,141 タイトルとなっており，これらの情報から，まだまだ点字図書や録音図書の充実には程遠いことが伺える．さらに西日本新聞（2020/2/7）では，福岡県立福岡高等視覚特別支援学校の教諭で全盲の久保弘樹さん（47）について，次の通りに記載されている．

本の点訳や、音声化する音訳は、全国の点字図書館などに登録するボランティアが支えている。久保さんも、読みたい本が点字図書になっていない場合はボランティアに依頼することがある。ただ、点訳は

【視覚障害についての講義レポート】

文章を一文字ずつパソコン入力して点字データにし、誤字がないよう校正を複数回した後で紙に点字印刷するため、完成まで半年かかることもざらだ。久保さんは「特に深刻なのは、受験生が参考書をすぐに手にできないこと。ボランティア頼みには限界がある」と憂える。(西日本新聞，2020/2/7)

ボランティア活動を盛り上げることは，アクセシビリティリーダーの活動理念を広く知らしめ，協力を仰ぐためにも重要なファクタである．しかし，ボランティアに頼る構造のリスクとしては，高い持続可能性と生産効率を望めないことが挙げられる．さらにサピエ図書館は健常者を利用対象に含めていないため，その利用価値を多くの健常者が認知できていない点も改善の余地があると考えられる．

そこで筆者は，「サピエ図書館を健常者にも広く一般公開し，利用を促す」という改善策を提案する．視覚情報に頼らず情報を得られる朗読は，最近では Amazon の提供するオーディオブックサービス「Audible」が注目を浴びているなど，健常者の間でも話題を呼んでいる．「Audible」では，人気声優が約 40 万冊もの本をナレーションしており，オフラインでの再生も可能なため，通勤通学などで広く利用されている．その他にもオーディオブックサービスはいくつか出てきてはいるものの，その多くはビジネス本であったり，自己啓発本である．対して図書館で扱われているものは「日本十進分類法」のすべての種類の本であり，都道府県立図書館では 53.2%の館で図書の蔵書数が 75 万～100 万冊未満（Fig.3）となっていることから，今後の展望としてサピエ図書館は他の民間サービスを包括する程度のオーダーで蔵書を提供する必要があるといえる．それらの供給量をボランティアだけで賄うことは現実的に厳しいが，サピエ図書館の録音図書を健常者にも公開し，利用料を徴収することで，予算的な可能性が切り開けると筆者は考える．

あらゆる人が過ごしやすい社会を作るためには健常者も障がい者も関係なく，社会の構成員たる市民が広く問題意識を持つことが必要である．そして健常者と障がい者とが同じサービスを利用することで，そこに当事者意識が生まれ，問題解決につながるのではないだろうか．

最後に，聴覚障がいと視覚障がいとの比較について述べる．知花さんは中学生のころから目が見えにくくなった全盲者であるとのことで，前回の聴覚障がいの講演でも出た「多様性」の観点が，今回の講演でも出てきた．やはり視覚障がい者といってもその中には様々なバックボーンを持った人が存在するということだ．Fig.4 に平成 28 年における視覚障がい者の年齢別割合をまとめた（作成に用いたデータは情報バリアフリーのための情報提供サイトより引用）．60 歳以上の視覚障がい者が全体の 76.9%を占めることから，視覚障がい者への配慮の多くには高齢者への配慮も同時に必要とされることがわかる．単に視覚障がい者だからこの支援が必要であるという括りで見るのではなく，その中で何が本当に必要とされているのかを見極めることも重要だ．

障がいと向き合うということは多様性と向き合うということである．一人ひとりが今直面している問題と真摯に向き合い，対話をすることでしか，多様性の海を越えて共生社会を作ることはできない．一人のアクセシビリティリーダーとして，その多様性の海の荒波も，美しさも，ますます知りたいと思うような講演であった．話者の知花さんへ，最大の敬意を表したいと思う．

以上

【視覚障害についての講義レポート】

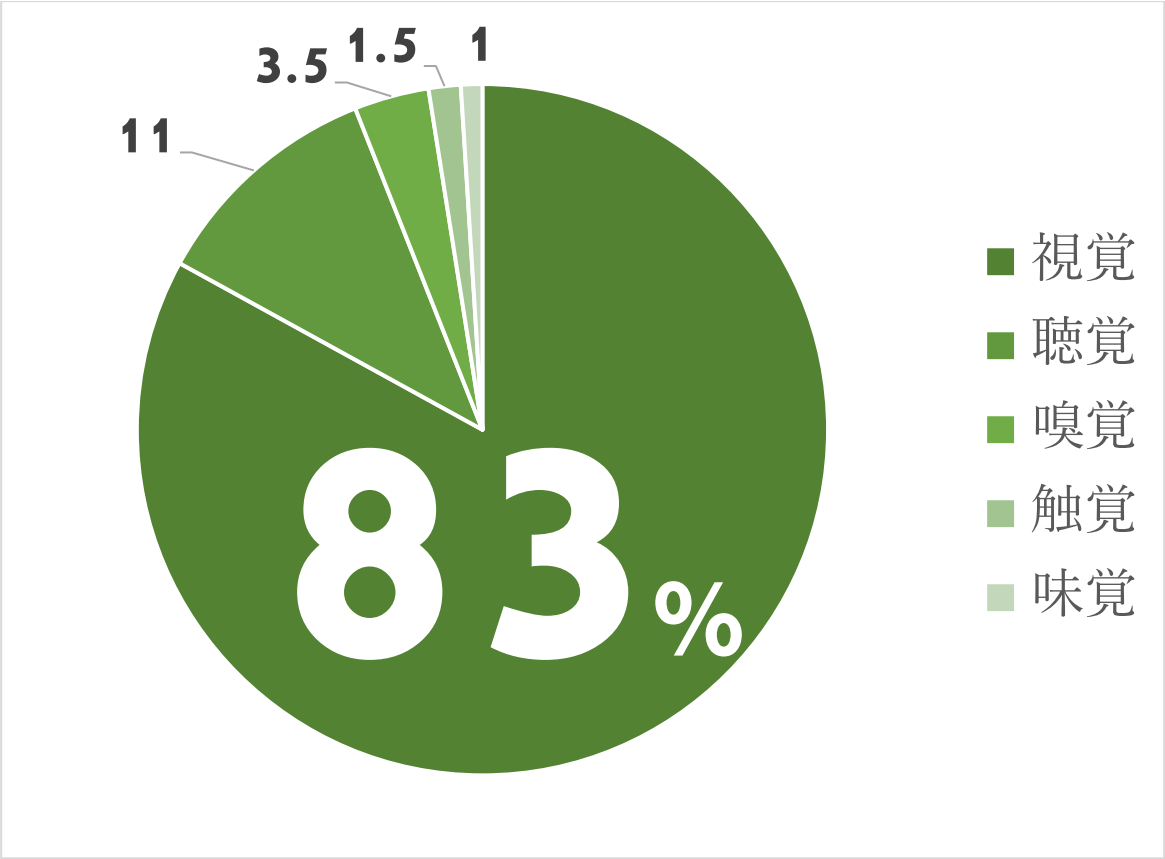

Fig.1 情報収集に占める五感の割合（データは産業教育機器システム便覧より引用）

Fig.2 サピエ図書館のホームページ画面

【視覚障害についての講義レポート】

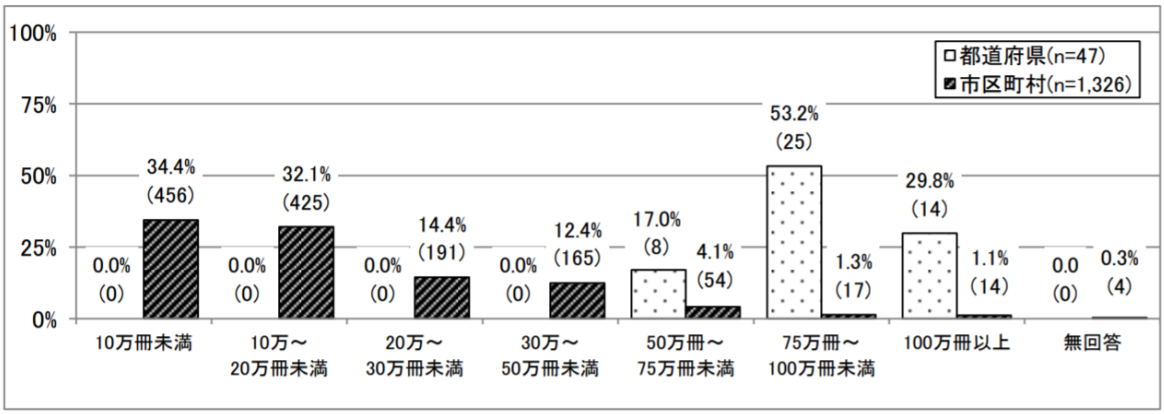

Fig.3 全国図書館の図書の蔵書数（全国公共図書館協議会より引用）

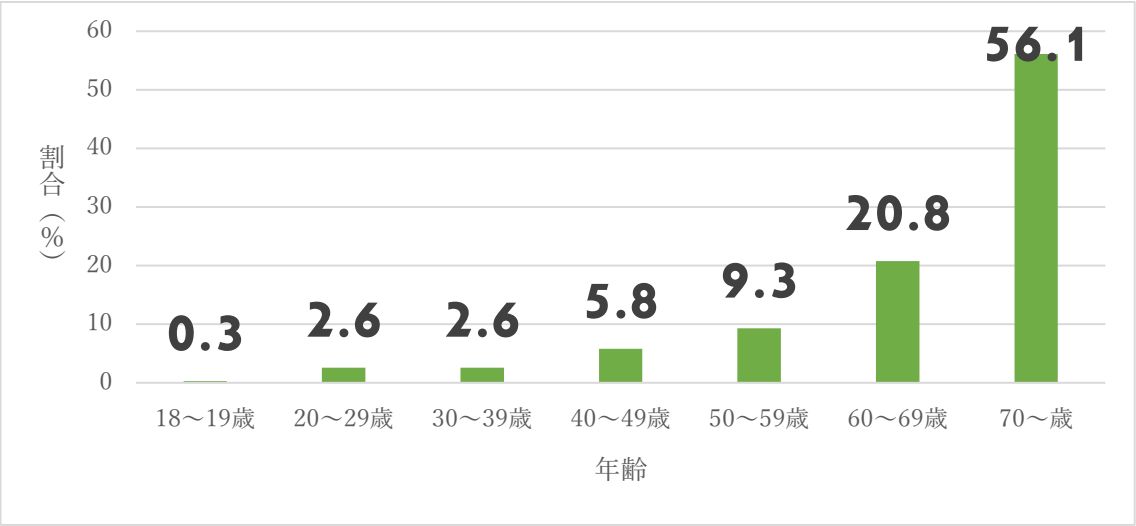

Fig.4 平成 28 年における視覚障がい者の年齢別割合

（データは情報バリアフリーのための情報提供サイトより引用）

引　　用

- 教育機器編集委員会編（1972），五感による知覚の割合，産業教育機器システム便覧，日科技連出版社，p. 4
- 日本点字図書館，サピエ図書館，視覚障害者情報総合ネットワーク，2021/1/20 閲覧，https://www.sapie.or.jp/cgi-bin/CN1WWW
- 国崎万智，受験生「参考書すぐ手にできない」…点字図書，ボランティア頼みに限界，西日本新聞，くらし面，2020/2/7 掲載，2021/1/21 閲覧，https://www.nishinippon.co.jp/item/n/582263/
- 社会福祉法人日本点字図書館事業報告（2017），Ⅰ≪社会福祉事業１≫視聴覚障害者情報提供施設の設置経営及び全国の視聴覚障害者情報提供施設に関する連絡事業　１．図書情報提供サービス　③ 録音図書の蔵書数および貸出・提供，p. 3，https://www.nittento.or.jp/images/pdf/about/h29report.pdf
- 全国公共図書館協議会，公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書（2018），第１章 図書館基本情報　２ 中心館に関する基本情報 （4）蔵書数　ア 図書，p. 15，https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/uploads/10zentai.pdf
- 年齢階級別にみた身体障害者手帳所持者数の分布・障害別の内訳（平成 28 年），身体障害者の年齢階級別状況，情報バリアフリーのための情報提供サイト，情報通信研究機構，2020/7/21 更新，2021/1/20 閲覧，https://barrierfree.nict.go.jp/relate/statistics/population3.html